

ガーデンシティふかや推進室 [ふかや緑の王国・深谷市榎引24-2(花植木流通センター隣)] ☎551-5551

花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!

第16回あかり展

優しさに満ちあふれた心温まる“あかり”を見に来ませんか。花園小学校児童が制作したあんどんや、ふかや緑の王国ボランティアが制作した、中世ヨーロッパの街並みをイメージした陶芸のオブジェなどを展示します。また、キャンドル教室ラバンヌーボの「#チーム灯火」によるキャンドルナイト(展示、販売)も行います。

とき 11月15日(金)・16日(土)午後5時～8時(雨天中止) ※キャンドルナイトは16日のみ

ところ ふかや緑の王国

持ち物 懐中電灯

※車でお越しのかたは、ふかや緑の王国隣の花植木流通センター駐車場をご利用ください。



▲陶芸のオブジェ



▲あんどん



▲キャンドルナイト

緑の王国クリスマスリース販売

王国ボランティアが手作りしたクリスマスリースおよび花苗の販売を行います。

とき 11月16日(土)10時～正午

ところ ふかや緑の王国温室内



深谷駅北口ステーションガーデンウインターイルミネーション

公共花壇のひとつであるJR深谷駅北口ステーションガーデンを、約2万個のLEDで飾り付けます。ボランティアの皆さんにより丁寧に維持管理されている花壇が、暖かい光に包まれて駅前を彩ります。ぜひご覧ください。

とき 11月29日(金)～令和7年1月9日(日)没から

ところ JR深谷駅北口ステーションガーデン



ふかや緑の王国のSNSのご紹介

ふかや緑の王国ではSNSを活用し、園内の見どころやイベント情報などの最新情報を発信しています。ぜひフォローをお願いします。



ガーデニング教室参加者募集! ※QRコードが読み取れないかたは電話での申し込みできます

ナチュラルオーナメントのクリスマススワッグづくり教室

とき・ところ 11月27日(水)午前10時～11時30分・ふかや緑の王国

定員 20人(抽選)

参加料 3,500円(材料費を含む)

講師 飯塚美和氏(フラワーカンパニー)

申し込み 11月6日(水)午前9時から11日(月)午後5時までに電子申請(右記QRコードからアクセス)※1回の申し込みで2人まで



▲作品イメージ ※当日使用する花材と異なる場合があります



お正月のしめ縄リースづくり教室

とき・ところ 12月4日(水)午前10時～11時30分・ふかや緑の王国

定員 20人(抽選)

参加料 2,500円(材料費を含む)

講師 善本由紀氏(株)日比谷花壇

申し込み 11月13日(水)午前9時から18日(月)午後5時までに電子申請(右記QRコードからアクセス)※1回の申し込みで2人まで



▲作品イメージ ※当日使用する花材と異なる場合があります



ふっかちゃん子ども福祉事業

「ふっかちゃん子ども福祉基金」を活用し下記の助成事業を実施しています!詳しくはお問い合わせください

	軽度・中等度難聴児 補聴器購入費助成事業	深谷市ふっかちゃん障害児 療育経費助成事業	深谷市ふっかちゃん障害児 スポーツ助成事業
助成内容	補聴器を購入する費用の一部	障害児が、医師の指示のもと実施される、専門性の高い療育事業に参加した場合、その経費の一部	障害児が行う障害者スポーツに必要な補装具・用具・消耗品の購入費用など
助成対象	次の要件をすべて満たす18歳年度末(18歳に達する日以降の最初の3月31日)までの難聴児①深谷市に住所を有する、②両耳の聴力レベルが25デシベル以上で、身体障害者手帳の交付対象とならない、③装用により言語の習得など一定の効果が期待できると医師が判断	次の要件をすべて満たす18歳未満の障害児または障害児の保護者①障害児または障害児の保護者のいずれかが深谷市に住所を有する、②対象の療育事業(音楽療法、ソーシャルスキル、ヴィジョントレーニングなど)に参加した	次の要件をすべて満たす18歳年度末(18歳に達する日以降の最初の3月31日)までの障害児①深谷市に住所を有する、または在勤・在学している、②障害者スポーツに必要な補装具の購入・修理または用具・消耗品の購入
助成金額	購入する補聴器の種類によって異なります。	参加費用の2分の1(100円未満切捨て) ※月額上限5,000円	<ul style="list-style-type: none"> 補装具の購入または修理費の10分の9(年間上限50万円) 用具または消耗品費の2分の1(年間上限4万円)
備考	購入する前に申請が必要です。	障害者手帳を所持していないかたも医師の意見書により助成を受けられる場合があります。	対象スポーツであれば部活動などで使用する場合も対象(授業で使用する場合は対象外)。障害者手帳を所持していないかたも医師の意見書などにより助成を受けられる場合があります。

障害福祉課 ☎571-1011・FAX 574-6667

新紙幣 あれこれ

渋沢栄一とお札の歴史

現在、市役所本庁舎1階多目的ホールでは、日本銀行から寄贈された「A0000006A」番の1万円札と、福岡市の男性から寄贈された「AH0000010DG」番の1万円札、国立印刷局から寄贈された渋沢栄一の肖像のコンテ画を展示しており、併せて「渋沢栄一とお札」という映像を見ることができます。

今回は「渋沢栄一とお札」の映像でも紹介している、渋沢栄一とお札の歴史について紹介します。

日本で最初のお札は1600年ごろ、伊勢山田地方(現三重県)にいた商人が発行した「山田羽書」と呼ばれる証書であると言われています。当初は商人たちが

がおつりて銀貨を使用する代わりに、紙に書いて使い始め、しだいに通貨として広まりました。それからおよそ240年後の1840年、渋沢栄一は誕生します。

栄一がお札と深く関わるのは一橋慶喜に仕えていた時です。一橋家の財政の立て直しを任せられた栄一は、一橋領の播磨国の特産品である木綿に目をつけました。地域で使える藩札(木綿預手形)を発行し、その藩札で購入した領内の木綿を大阪で販売して正金に換えるという方法で、お金を集めることに成功したのです。

・・・と、このコーナーではここまで。渋沢栄一とお札の歴史について、さらに詳しく知りたいかたや、まだ若い記番号のお札を見ていないというかたは、市役所本庁舎1階多目的ホールにぜひお立ち寄りください。



▲「渋沢栄一とお札」コーナー